

# ブラキムラとめぐる！ 仙台城下町ボヤージュ 【2022年8月2日放送分・北五番丁／北鍛冶町】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 芭蕉の辻から奥州街道(現在の国分町通)を北上する旅の途中です。今月は仙台第二中学校の南側からスタートです。実はこの東西の通りがそのまま北五番丁で、西側は現在、東北大学病院に塞がれていますが、藩政時代は青葉区広瀬町界隈の谷地形「へくり沢」まで続いていました。
- 私と木村浩二さんは、久々に奥州街道の本筋をめざして東へ進みます。北五番丁の東詰は、北番丁ここまでの例にもれず宮町までの長い通りでした。大通りに拡幅されていないため、藩政時代の雰囲気を感じやすい通りです(笑)。中級の侍屋敷が建ち並んだ通りで、今でも比較的広い敷地の屋敷が多い閑静な住宅街です。

- やがて直交する南北の通りが、芭蕉の辻からまっすぐ北上してくるかつての奥州街道で、今月の辻標は道沿いの映画館「フォーラム仙台」の北西角に立っています。「北五番丁／北鍛冶町」です。
- このコーナーを聞いてくださっている皆さんは、若林区の南鍛冶町を覚えていますよね？荒町商店街の東側です。去年秋までの奥州街道を南に歩くシリーズで、伊達政宗の副都心建設の際に鍛冶町から分かれたと、ご紹介しました。元々の鍛冶町は、定禅寺通の南側にありました。江戸時代初期の寛永年間に侍屋敷を割り付けるため南北に分けられたうちの北側が、この北鍛冶町です。刀匠や鋳物師といった鍛冶職人だけでなく、飲食店も建ち並んで大いに賑わった街道沿いの町です。元の鍛冶町があった地区は、侍の街区となり元鍛冶「丁」と表記を変えて、今も交番のある公園にその名を残しています。



〈文・佐々木淳吾〉